

2018 年 期 第 6 回 課 題 研 究 テ ー マ

【11 班～20 班】

テーマ	<p>職業的懐疑心の保持、発揮</p> <p>平成 28 年 1 月 27 日付に日本公認会計士協会より公表された「会長通牒」及び「監査提言集（特別版）」において、職業的専門家としての懐疑心に関連した下記の設例について述べなさい。</p> <p>① 会長通牒において、「重要な虚偽表示リスクは常時変化する可能性があるため、監査過程を通じてリスクを見直す。」とありますが、重要な虚偽表示リスクを見直す必要がある事象には具体的にどのようなものがありますか、例を 3 つ挙げ、それぞれどのようにリスクを見直し監査上の対応をしていく必要があるか述べなさい。</p> <p>② 会長通牒において、「内部統制の評価について表面的な承認の有無の確認に終始することなく、運用評価手続の目的を十分理解した上で手続を実施する」とありますが、具体的にどのような手続をしたらよいですか。全社的な内部統制と業務プロセスに係る内部統制に分けて留意すべき点を述べなさい。</p> <p>③ 監査提言集（特別版）において、「『理解している』との『思い込み』が職業的懐疑心を曇らせる場合がある」とありますが、「思い込みを排して、新たな心持ちで毎期の監査に臨む」ために気持ちや姿勢だけでなく、監査業務として具体的にどのようなことを行ったら良いですか。不正事例や実務上職業的懐疑心を曇らせてしまった（かもしれない）と感じた経験等を踏まえ述べなさい。</p>
-----	---